

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

なし

(発行年 / Year)

1910

地役權

(理由) 本案ハ法律上ノ地役ナルモノヲ認メス既成法典ニ於テ法律上ノ地役ト稱スルモノハ本案ニ於テハ之ヲ所有權ノ限界トシテ所有權ノ章中ニ規定セリ而シテ茲ニハ單ニ所謂人爲ノ地役ナルモノノミニ付テ規定ス

地役ノ規定ニシテ所有權ノ限界ニ適用スヘキモノアラハ之ヲ適用シ且其趣ヲ條文ニ掲グルコト猶既成法典財產編第二百七十條ノ如クスヘキナレトモ地役ト所有權ノ限界トハ全ク其性質ヲ異ニスルモノナルヲ以テ從テ地役ニハ特別ノ規定ヲ要スル場合ナリトモ所有權ノ限界ニハ之ヲ要セサルコト多クアリ例ヘハ財產編第二百六十七條乃至第二百六十九條ノ規定ノ如キハ所有權ノ限界ニハ當然ノコトニシテ散テ地役ノ規定ノ適用トイフニモアラザレハ既成法典ニ於テ人爲ノ地役ノ規定ヲ法律上ノ地役ニモ適用ストイヘル第二百七十條ノ規定ハ本案ニ於テ之ヲ創設セリ

既成法典財產編第二百六十九條ニハ既權ニ關スル規定ヲ掲クレトモ本案ニ於テハ既權ノ事ハ所有權ニ就テモ之ヲ掲ゲサリレ如ク地役ニ就テモ亦之ヲ掲グス

同編第二百七十一條乃至第二百七十四條ハ地役ノ種類ヲ掲ゲ且之ニ定義ヲ附セリト雖モ本案ニ於テハ成ルヘク定義ヲ掲ゲザルノ主義ヲ採リタルト殊ニ既成法典ニ掲グル定義ノ如キハ概テ諸學者ノ間ニ異論ナキ所ニシテ唯問題ノ生スルハ某ノ地役ノ果レテ右定義中ノ何レニ適合スルヤニアルモノナルヲ以テ此ノ如キ定義ハ法律ノ明文ニ掲グルコトヲ宜シク學者ノ説明ニ放任スルヲ可ナリト

ス殊ニ有的無的ノ區別ノ如キハ既成法典中ニモ之ヲ實用ヲ認メサルモノナリ是レ外國ニ其例多キニ拘ハラズ本條ニ於テ右ノ四條ヲ削除シタル所以ナリ

第二百七十八條 地役權者ハ設定行為ヲ以テ定メタル目的ニ從ヒ他人ノ土地ヲ自

己ノ土地ノ便益ニ供スル權利ヲ有ス但第三章第一節中ノ公ノ秩序ニ關スル規定

ニ違反セザルコトヲ要ス

共有ノ性質ヲ有セザル入會權ニ付テハ各地方ノ慣習ニ從フ外本章ノ規定ヲ準用

ス

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百四十四條及第二百六十六條ニ修正ヲ加ヘタルモノナリニ其要點ヲ示シ

一 既成法典財產編第二百四十四條第二項ニハ地役ノ法律又ハ人爲ヲ以テ設定スト言ヘトモ本條ニ於テハ所謂法律上ノ地役ヲルモノヲ地役ト稱セス其理由ハ既ニ說明レオキタルヲ以テ再ヒ註スルニハレ

二 同條及第二百六十六條ニ地役ハ一人ノ不動產ノ便益ノ爲メ他人ノ不動產上ニ設ケタル負擔ナリトシ地役ヲ土地ニ限ラスレテ廣ク建物等ニモ及ホセシハ隣家ノ牆壁ヲレテ自己ノ家屋ヲ支持セシムルカ如キ場合ヲ想像シタルモノニシテ我國從來ノ家屋ニ關シテハ多ク其適用ヲ見サルヘシ將來西洋風ノ家屋ヲ續キ我國ニ建築スルコトアリトスルモ尙右ノ規定ヲ必要トスルセザヤニ關シテハ頗ル疑

ナキ能ハス土地ノ所有者若ク同時ニ家屋ノ所有者ナルトキハ家屋モ亦土地ノ一部ヲ爲ストノ理由ニ依リテ本條以下ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ヘタ若シ又土地ノ家屋トハ全ク別人ニ屬スルコトキハ家屋ニ關シテ地役ヲ設定シ得ザルハ本條ノ規定スル所ナリ此際若シ建物ノ所有者等ニシテ隣地ノ地上權又ハ永小作權ヲ有スル者ノ建物ヲ支持セシメントスルトキハ宜クク人權關係ニ因リテ其目的ヲ達スベレ之カ爲メニ取テ物權ノ地役權ヲ設定スルコトヲ要セザルナリ是本條ニ於テハ永小作權ノ例ニ倣ヒテ地役權ハ土地ニ關シテノニ存スルモノト規定スル所以ナリ

三 原文ニハ地役ハ不動產上ノ負擔ナリト言ヒ義務本位ニ基キテ地役ノ規定ヲ爲セトモ本條ニ於テハ地役ヲ權利ナリトシ地上權及ホ永世權ト等シク權利本位ニ基キ權利ノ側面ヨリ之ヲ規定レタリ殊ニ土地カ義務ヲ負擔スト云フカ如キハ寧ろ形容ノ辭ニシテ頗ル正確ノ缺ケル語ト謂フハレ

四 第二百六十六條但書ニハ地役カ公ノ秩序ニ反セザルコトヲ要ストセリ若シ文字ノ表面ニ現ハルル如キ意義ナリトスレバ是レ當然言フヲ待タサル所ニシテ宜ク創除スヘキモノナルモ既成法典ノ精神ヲ探ルニ決レテ此ノ如キ漫然タルコトヲ言フノ意ニ非スレテ其真意ハ人爲地役ヲ設定スルノ行為

ニ依リテ法定地役ノ規定中公ケテノ秩序ニ關スルモノヲ廢ルヲ得ストスルニアルヲ以テ本條ハ但書ニ修正ヲ加ヘテ其主意ヲ明カニセリ

五 入會權ノ中ニハ或ハ共有ノ性質ヲ有スルモノアリ或ハ地役ノ性質ヲ帶リテモノアリ全國至ル所ニ入會權ニ關ヘル慣習ヲ存セザルナラハ法律ヲ以テ直チニ之ヲ一定スルコト難キカ故ニ共有ノ性質ヲ

有スルモノニハ共有ノ規定ヲ適用シ地役ト同一ノ性質ヲ有スルモノニハ本章ノ規定ヲ適用スルコトトセリ而シテ入會權ニ關シテ各地方ニ散在スル慣習ノ如キハ決シテ法律ヲ以テ之ヲ更ムヘキニアラサルカ故ニ先ツ慣習ニ仍ルコトヲ原則トシ唯慣習ノ明カナラサル場合ニ於テノミ本章ノ規定ヲ適用スヘキモノトシタルナリ

第二百七十九條 地役權ハ要役地ノ所有權ノ從トシテ之ト共ニ移轉シ又ハ要役地ノ上ニ存スル他ノ權利ノ目的タルモノトス但設定行為ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

地役權ハ要役地ヨリ分離シテ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ權ノ目的ト爲スコトヲ得ス
(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百六十七條ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

一原文第一項ニハ唯所有權移轉ノ場合ニ關シテ規定ストモ所有權ヲ移轉セズレテ單ニ他ノ權利ヲ設定スコトモアリ此ノ如キ場合ニ於テモ尙地役權ハ之ノ目的タルモノニキリ以テ本條ノ如ク增補セリ
二原文ニハ地役ハ働方又ハ受方ニテ不動產ノ從トシテ附著スル言ハリ然リト雖モ地役權ヲ物權ナリトスル以上ハ物權ハ其目的物ノ何人ニ移轉スルコトアルモノ取テ消滅セサルヲ原則トスルヲ以テ之カ適用トシテ承役地カ何人ノ有ニ歸スルモノ共上ニ存スル地役權ノ消滅セサルコト亦自ラ明カナリ從テ地役ハ受方ニテ不動產ニ附著スルノ文字ハ全ク無用ノモノトナルモノ故ニ外國ニ其例アルニ均ハラス本案ニ於テハ之ヲ省キモレンドテテドロロ民法獨逸民法ノ讀會草案印要地役法等ニ倣ヒ働方ノ成就ヲノミ

カ規定ヲ設ケヌリ

三本條但書ハ原文ニナキ所ナレトモ土地ノ所有者ハ時トシテハ其人ヲ信レテ之カ爲メニ地役ヲ設定スルコトアリ此ノ如キ場合ニ要役地ノ所有權ヲ移轉スルニ伴フテ地役權モ亦必ス之ニ附隨シテ移轉スルモノトスルトキハ設定者ノ意志ニ反スルニ至ルニキリ以テ豫メ特約ヲ附シテ地役權ヲ移轉セザルコトヲ定ムルコトヲ得セムルヲ可トス而シテ地役權ハ通常要役地ノ所有權ニ伴フテ移轉スルモノナルヲ以テ第三者ニ對シテ此特約ヲ對抗セシムルハ地役權ト共ニ之ヲ登記セシムルコトトスルベク登記ノ爲メハ決シテ第三者ヲ誤ルノ虞ナキナリ既成法典ノ主意モ亦或ハ本案ノ如クナルヤモ計ラレシヤルモ明文ナキカ故ニ或ハ其如何ヲ疑フ者アルヘキヲ以テ本案ニ於テハ但書ヲ加ヘテ此主義ヲ明カニスルベシ

第二百八十一條 土地ノ共有者ノ一人ハ其持分ニ付キ其土地ノ爲メニ又ハ其土地ノ上ニ存スル地役權ヲ消滅セシムルコトヲ得ス

土地ノ分割又ハ其一部ノ讓渡ノ場合ニ於テハ地役權ハ其各部ノ爲メニ又ハ其各部ノ上ニ存ス但地役權カ其性質ニ因リ土地ノ一部ノミニ關スルトキハ此限ニ在ラス

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百六十八條ノ文字ヲ改メタルノ原文ハ稍教科書ノ口氣ヲ類スルノ嫌アルヲ以テ本案ニ於テハ之ヲ改正セリ

第二百八十一條 地役權ハ繼續且表現ノモノニ限り時効ニ因リテ之ヲ取得スルコ

トヲ得

(理由) 一、本條ハ既成法典財產編第二百七十六條第一項ニ文字ヲ修正ヲ加ヘタルモノ

二、原第二項ニハ引水地役權ヲ取得スル時効ノ起算ハ要役地又ハ承役地ハ外見ノ工作物ヲ作りタル時ヨリスト言ヒ要役地ニ工事ヲ施コスモ若レ其工作物ノ外見タルニ於テハ其地役ハ總テ之ヲ表現ノモノトスレトモ地役ノ表現タルト否トハ全ク之ノ事實ノ問題トシテ承役地ヨリ容易ニ見ルコトヲ得ヘキトキハ之ヲ表現ノモノトシテ容易ニ見ルコト能ハサルモノナルトキハ之ヲ不表現ノモノトスルヲ妥當ナリト信シテ右ノ第二項ヲ削除セリ

三、本條ニ於テ既ニ地役權ハ繼續且表現ノモノニ限り時効ニ因リテ之ヲ取得スルコトヲ得トセル以上ハ不繼續及ヒ不表現ハ時効ニ因リテ之ヲ取得スルコトヲ得サルハ反照ノ論理ニ據リテ明白ナルコトヲ別ニ法文ヲ要セサルコトト信スルハ、地役ノ合意又ハ遺言ノ以テ之ヲ設定スルコトヲ得トシ、既成法典財產編第二百七十五條第一項ニテ、地役ノ合意又ハ遺言ノ以テ之ヲ設定スルコトヲ得トシ、外見ニモ其例アレトモ(漢四八〇、ゲ、ユーリヒ二四三、索五六七)所有者ガ其權利ノ全部若クハ一部ヲ隨意ニ讓渡シ得ルハ當然ノコトニシテ又其方法、如キニ至リテモ合意ニ因リテ將タ又遺言ニ因ルトハ總テ其自由ニスヘキハ明白ノコトニシテ殊更法文ヲ要セサルコトト信シテ右ノ條文ハ之ヲ削除セリ

第二百八十二條 共有者ノ一人カ時効ニ因リテ地役權ヲ取得シタルトキハ他ノ共

有者モ亦之ヲ取得ス

共有者ニ對スル時効中斷ハ地役權ヲ行使スル各共有者ニ對シテ之ヲ爲スニ非サ

五、同編第二百七十七條ニ所有者ノ用方ニ因リテ或ハ種ノ地役ヲ設定シタルモノト看做スト規定セリ此レ亦外國ニ其例アル所ナレトモ單ニ所有者ノ用方ニ因リテ地役設定ノ意思ヲ推測スルハ決レテ妥當ヲ得タルモノニアラス宜レク之ノ事實ノ問題トシ所有者ノ意思ノ明カナルトキニ限りテ地役ノ設定アレモトシ共不明ナル場合ニ於テハ尙事實ヲ審査シテ之ヲ決スヘキモノトスヘシ所有者カ自巳ノ所有ニ屬スル二箇ノ土地ニ付キ甲地ノ爲メニ乙地ヲ使用スルノ一事アルモノニ由テ單テ土地役權ヲ設定スルノ意思アルモノト推測スルハ蓋シ早計ニ失スルモノト言ハサルヲ得ズ殊ニ我國ニハ從來曾テ此ノ如キ推測ヲ下セルノ例ナカリシヲ以テ本案ニ於テハ全ク之ノ事實ノ問題トシ從テ右ノ條文ハ之ヲ削除セリ

六、同編第二百七十五條第二項ハ當然言フヲ待タズキル所ナルヲ以テ之ヲ削除セリ但登記法ニ於テ或ハ繼續且表現ノ地役ハ之ヲ登記スルヲ要セスト規定スルコトナレトモ此レトモ此ノ如キコトハ一ニ登記法ノ規定ニ讓ルヘキモノトシ茲ニハ登記ニ關シテ何事ヲモ言ハサルナリ

七、同編第二百七十八條ノ規定ハ專ラ證據ニ關スルモノナルヲ故ニ本案ノ主義ニ從ヒテ之ヲ削除セ

レハ其效ナシ

地役權ヲ行使スル共有者數人アル場合ニ於テ其一人ニ對シテ時效停止ノ原因アルモ時效ハ各共有者ノ爲メニ進行ス

(理由) 本案ハ既成法典及ヒ外國普通ノ例ニ倣ヒ共有者一人ハ地役權ヲ行使スルトキハ地役權不可分ノ結果トシテ當然他ノ共有者ノ爲ニモ之ヲ行使スルモノトシテ此主義ヲ取得及ヒ消滅ノ時效ニモ適用シタルナリ既成法典及ヒ外國多數ノ例ニ於テハ單ニ消滅時效ニ付テノミ之ヲ適用シテモ苟モ地役不可分ノ主義ヲ採ル以上ハ取得ノ消滅ト間ニ此ノ如キ區別ヲ付スヘキノ理ナレ和蘭及ヒ暹羅民法ハ本案ノ如ク之ヲ兩種ノ時效ニ適用スレドモ又本案ノ異ナリテ契約ヲ以テ地役權ノ設定スル場合ニモ同一ノ主義ヲ採用シ印度地役法ノ如キハ契約ニ付テノミ之ヲ規定スレドモ契約ノ效力ハ當事者間ニ限ルモノナルハ普通ノ原則ナルヲ以テ本案ハ單ニ時效ニ關レドモ其不可分ノ主義ヲ貫徹セリ

二、本案第一項及ヒ第二項ノ規定ハ未ダ他ニ其例ヲ見サル所ナレトモ前述ノ理由ニ因リ當然此ノ如ク爲ササルヘカラス而モ明安ナキトキハ必ス爭疑ヲ生スヘキヲ以テ特ニ之ヲ加ヘタリ

第二百八十三條

用水地役權ノ承役地ニ於テ水カ要役地ト承役地トノ需用ニ爲メニ不足ナルトキハ其各地ノ需用ニ應ジ先ツ之ヲ家用ニ供シ其餘ヲ他ノ用ニ供スルモノトス但設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

同一ノ承役地ニ數個ノ用水地役權ヲ設定シタルトキハ後ノ地役權者ハ前ノ地役權者ノ水ノ使用ヲ妨グルコトヲ得ス

(理由) 本條ハ既成法典附書編第二百八十二條ニ左ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ

- 一、原文第一項ノ規定ハ伊國民法第六百五十五條及ヒ第六百五十一條ニ其例アリト雖モ當然言フヲ得サル所ナルヲ以テ之ヲ删除セリ
- 二、原文ニハ水ハ要役地ノ所有者ト承役地ノ所有者トノ需用ニ不足ヲ告グルトキハ第一家用ニ第二農業用ニ第三工業用ニ之ヲ供スルモノトセリ外國ニハ未ダ其例ヲ見サル所ナレトモ水ノ使用方法ニ區別ヲ附シ家用ヲ先キニシ他ノ用ヲ後ニスルハ大ニ其當ヲ得タルモノナリ唯農業ト工業トノ間ニ差等ヲ附シタルハ稍其理由ニ乏レキヲ以テ本案ニ於テハ之ヲ家用ト他ノ用トニ二天別セリ
- 三、原文ニハ取水ノ量ハ不撻産ノ重要ノ度ニ割合スモノトスレトモ水ノ需用ノ高ハ不撻産ノ種類ヨリモ寧ロ人口ノ多少又ハ職業ノ種類ニ由リテ異ナルモノナルカ故ニ本案ニ於テハ原文ヲ改メテ各地ノ需用ニ應スヘキノト修正セリ
- 四、原文ニハ數個ノ用水地役權アルトキハ家用ノ爲メニ要スル水ハ之ヲ各地役權者ノ間ニ平分シ農工業ニ要スル水ニ付テハ地役權設定ノ前後ニ從フヘキノトトセリ此規定ハ先位ノ地役權者ノ權利ヲ害シテ後位ノ地役權者ニ不當ノ利益ヲ與フルモノナリ如何トナレハ先位ノ地役權者ハ地役權ノ設定ニ因リテ承役地ノ所有者ト其水ヲ平等ニ分用スルノ權ヲ取得シタルモノニシテ承役地ノ所有者ハ既

ハ其行使ニ必要ナル工作物ノ建設及ヒ修繕ノ費用ハ總テ地役權者ノ負擔ニ屬スルコトヲ旨ヲ明言セリト雖モ是レ當然言フヲ待タサルコトナルヲ以テ本案ニ於テハ之ヲ削除シ却テ承役地ノ所有者ヲ建設及ヒ修繕ノ義務ヲ負擔セル場合ニ於テ其義務ヲ特定承繼人ニモ及フコトヲ明言セリ蓋シ一般ノ承繼人ハ前者ノ權義ヲ惡ク承繼スルモノナルヲ以テ地役ニ關スル義務モ亦之ヲ承繼スルハ疑ナキコトナレトモ特定承繼人ニ至リテハ單ニ權利ノミヲ承繼スルコト普通ノ有様ナルカ故ニ本條ノ規定ヲケレハ建設及ヒ修繕ノ義務ハ承繼人ニ及ハサルヲ以テ特ニ本條ヲ設クテ其承繼人ニ及フコトヲ明カニシタルナリ

第二百八十五條 承役地ノ所有者ハ何時ニテモ地役權ニ必要ナル土地ノ部分ノ所有權ヲ地役權者ニ委棄シテ前條ノ負擔ヲ免カルコトヲ得

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百八十四條第二項ニ文字ヲ修正ヲ施シタルノミ

第二百八十六條 承役地ノ所有者ハ地役權ノ行使ノ爲メニ其土地ノ上ニ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得但地役權ノ行使ヲ妨ケサルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テハ承役地ノ所有者ハ其利益ヲ受クル割合ニ應ジテ工作物ノ設置及ヒ保存ノ費用ヲ分擔スルコトヲ要ス

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百八十六條第二項ニ文字ヲ修正ヲ施シタルノミ其主要ノ點ハ第一承役地ノ所有者ハ地役權ノ行使ヲ妨タルコトヲ得サル旨ヲ明言シタルト第二既成法典ニハ承役地ノ

所有者ハ工作物ヨリ收ムル利益及ヒ其使用ニ因リ増加ス可キ費用ニ應ジテ其建設又ハ保持ノ費用ヲ分擔スヘキモノトセルヲ本案ニ於テハ之ヲ改メテ本案第二百二十條ノ例ニ倣ヒ其利益ヲ受クル割合ニ應ジテ其費用ヲ分擔スヘキモノトシタルトニアリ而シテ原告第一項ノ如キハ當然言フヲ待タサルコトト信シタルヲ以テ之ヲ削除セリ

第二百八十七條 承役地ノ占有者カ取得時效ニ必要ナル條件ヲ具備シタル占有ヲ爲ストキハ地役權ハ之ニ因リテ消滅ス

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百八十七條第二項ニ文字ヲ修正ヲ加ヘタルノミ既成法典ニ於テハ時效ヲ推定シ本案ニハ之ヲ推定トセサル故ニ條文ノ字句ノ自ラ差違ヲ生シ

二 同條第二項ニハ地役ノ消滅原因ヲ列举セリト雖モ其第一號乃至第四號ノ如キハ全ク普通原則ノ適用ニシテ其第五號及ヒ第六號ノ如キモ或ハ時效ノ規定ヨリ或ハ物權總則ノ規定ヨリ自ラ明カナルモノナルヲ以テ特ニ明文ヲ要セスト信レテ第二項ハ全ク之ヲ削除セリ(第三章理由ニ參照)

三 同條第二百八十八條ニハ地役ノ拋棄ハ之ヲ明言スルコトヲ要スト曰ヘトモ特ニ地役ノ拋棄ニ限リ普通ノ原則ニ反レテ之ヲ明示スヘキモノトスヘキ理由ヲ有セス又其第二項ノ如キモ當然言フヲ待タサル所ナルヲ以テ同條ハ全然之ヲ削除セリ

四 同條第二百八十九條ニハ地役ハ混同ニ因リテ消滅スト規定スレトモ本案ニ於テハ既ニ物權ノ總則ニ於テ混同ニ關スル一般ノ原則ヲ定メタルヲ以テ特ニ地役ニ關シテ茲ニ之ヲ再言スルノ要ナセ又

既成法典ニ於テハ既同ヲ生シレタル行爲カ解除銷除又ハ廢絶セラルトキハ地役ハ暫ク消滅セザルモノト看做スト言ヘト一旦全ク死シタルモノノ再ヒ誕生スヘキ理ナク又若シ解除銷除等ノ效力ノ既往ニ遡ルモノトスレハ是レ消及效ノ一般ノ原則ニ因リテ既同ハ初メヨリ無カリレトナラフ以テ亦特ニ明文ヲ掲クルヲ要セザルナリ而シテ同條第二項ニ於テ不動産ヲ再ヒ分離シタルトキハ繼續且表見ノ地役ハ再生スト言ヘルハ異意既成法典ニ於テハ所有權ノ用方ニ因リテ地役ヲ設定シタルモノト看做スノ主義ヲ採用スルノ結果アレトモ本案ニアリテハ所有者ノ用方ニヨリ設定方法ヲ認メサルカ故ニ到底地役ノ再生ヲ來スカ知キコトナク旁同條ハ全然之ヲ削除セリ

第二百八十八條

前條ノ消滅時效ハ地役權者カ其權利ヲ行使スルニ因リテ中斷ス

(理由) 本條ノ規定ハ既成法典ニモナク又外國ノ立法例ニモ未ダ聞カサル所アレトモ一旦前條ノ消滅時效ヲ規定シナカラ本條ヲ設ケザルトキハ前條ノ消滅時效ハ之ヲ中斷シ得サルモノトナリテ地役權者ノ利益ヲ害スルコト頗ル大ナレハナリ前條ニハ承役地ノ占有者カ取得時效ニ必要ナル條件ヲ具備シタル占有者爲ストキハ地役權モ亦消滅スト言ヘルヲ以テ若シ單ニ前條ノミニレテ他ニ條文ナキトキハ地役權ノ消滅ヲ防クハ唯取得時效ノ條件ヲ具備スルヲ妨クル以外ニ途ナク取得時效ノ中斷ナケレハ地役權ノ消滅時效モ決シテ中斷スルヲ得サルコトナリ地役權者ノ不利益尠カラサルヲ以テ茲ニ本條ヲ設ケテ之ヲ修正シタルナリ

第二百八十九條

第二百六十八條ニ規定スル消滅時效ノ期間ハ不繼續地役權ニ付テ

ハ最後ノ行使ノ時ヨリ之ヲ起算シ繼續地役權ニ付テハ其行使ヲ妨クヘキ事實ヲ生シタルトキヨリ之ヲ起算ス

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百九十一條第二項ニ文字ヲ修正シ施シタルモノニ其第一項ヲ削除シタルハ本案ニ於テハ既ニ消滅時效ナルモノヲ認メ物權人權ニ通シテ之ヲ適用スルモノトセルカ故ニ地役ニ關レテ更ニ之ヲ再言スルノ要ナケレハナリ而シテ原文第二項ノ如キハ當然言フヲ得メザル所ナルノミナラス獨リ時效ニ付テノミ言フヘキ事ニモアツサルヲ以テ此レ亦削除セリ而シテ其消滅時效ノ期間ヲ二十年トシタルハ時效ノ總則ニ於テ消滅時效ノ期間ヲ二十年トシタルノ結果ニシテ地役ニ關レテハ特ニ之ヲ三十年若クハ四十年トスルノ必要ナケレハナリ

第二百九十條

要役地カ數人ノ共有ニ屬スル場合ニ於テ其一人ノ爲メニ時效ノ中斷又ハ停止アルトキハ其中斷又ハ停止ハ他ノ共有者ニ對シテモ其效力ヲ生

因リテ消滅ス

第二百九十一條

地役權者カ其權利ノ一部ヲ行使セザルトキハ其部分ノミ時效ニ

因リテ消滅ス